

農の架け橋 地域と共に

— 白子町農業委員会だより NO. 34 —



令和2年9月
編集・発行/
白子町農業委員会

『町の頑張る農業担い手集団』を皆さんに紹介します。

少数精鋭—強い団結力で一層の品質向上を目指す。

白子町葉煙草耕作組合

白子町における葉たばこ生産の歴史は古く、昭和27年頃から始まり、昭和31年4月、生産者相互の理解と信頼、生産性及び品質の向上を目的に、生産者25戸が集まり「白子町葉煙草耕作組合」が組織されました。昭和60年代には、共同育苗ハウス・共同乾燥施設の建設を行い、作業の効率化、品質及び生産性の向上に努め、65年経った現在も、共同は種、出荷を行うなど、組合一元となって取り組んでいます。



「現在の合計耕作面積は約9ha、合計出荷量は約20,000kg、日本たばこ産業(株)では、主にメビウス銘柄の原料となっている。組合戸数は4戸と設立当初からは大幅に減ってしまっているが、組合員みんなが互いに、“報告・連絡・相談”を心掛けており、強い団結力がある。」と、現在、組合長を務める秋葉 広行さんは話してくれました。「毎年、収穫後に組合旅行を行っているが、気心知れた仲間と同じ時間を過ごし、心の底から笑い“また、来年頑張ろう。”って、気になってくる。」と、笑う。

また、毎秋行われている「みどりの広場」では、組合員数が減ったにもかかわらず出店を続け、イベントを盛り上げてくれている。

「現在、電子たばこのシェアが20%を超え、たばこ業界も大きな変革期が来ている。この時代の流れを敏感に捉え、少数精鋭のいい部分をどんどん前に出して、より一層の品質向上を目指していきたい。また、組合員各々が土地利用型の専業農家として、地域農業の進展に貢献していきたい。」と、話す言葉に、長い時代共に歩む葉煙草耕作組合の息吹を感じました。



スクミリンゴガイの防除の取り組みについて

スクミリンゴガイ（通称：ジャンボタニシ）は、1980年代に食用に導入されたものが野生化したもので、今や九州から関東まで生息区域が広がり、県内では九十九里地域を中心に多く発生しており、本町も稲の若芽を食い荒らされる被害が多発しております。特に、今年は今年の暖冬により稚貝だけでなく成貝も越冬し早い時期から活動したために、人によっては何度も薬剤防除を行ったようです。

今年度、抜本的な防除体制の確立を目指し、千葉県農林水産部において「ジャンボタニシ緊急防除対策事業」が創設されました。これは、県内市町村単位で、地域自らが、総合的な防除対策を検討、実践、効果確認する取り組みに対して助成をするというもので、本町は、福島地区46haを対象地域として、4月からその取り組みに着手したところです。今回はこの取り組みを紹介します。

○令和2年度 白子町ジャンボタニシ緊急防除対策事業（地域で取り組む総合防除対策推進事業）

- *事業主体：白子町植物防疫協会（取組団体 福島地区環境保全組合）
- *実施面積：4,613a
- *事業内容：

- | | |
|---------------|-----------------|
| (1) 侵入防止対策 | (2) 食害防止対策 |
| ・取水口ネット設置 | ・薬剤防除 |
| (3) 越冬防止対策 | (4) 水路での貝密度低減対策 |
| ・石灰窒素の散布 | ・用排水路の泥上げ |
| ・厳冬期の耕うん(複数回) | ・貝捕殺、卵塊落とし 等 |



【活動実績】



【地域での話し合い/用水路ネット取付】 【貝捕殺、卵塊落とし作業】 【薬剤防除（ジャンボたにくん）】
 『ジャンボタニシの繁殖力が予想以上に凄いが、地域皆で一つひとつ根気強く取り組んでいきたい。』
 （代表 高橋正和 氏）

この取り組み結果及び効果等を広く周知することにより、本町の農家個々の防除に対する意識向上と各地域での実効性のある防除体制が普及・定着が図られるよう期待したいと思います。

「ジャンボタニシ緊急防除対策事業制度」について詳しく知りたい方は、白子町産業課(33-2115)まで、お問い合わせください。